

酒津の漁業者と協働したキジハタ放流試験

栽培漁業センターでは、今年からキジハタを新しい栽培漁業対象種として種苗生産技術の開発と放流技術の開発に着手しました。

キジハタは、鳥取ではアコウ、アカミズと呼ばれ、漁獲のほとんどが一本釣りです。流通量が少なく（鳥取県全体で年間 3 トン程度）、非常に美味しい魚のため、1kg あたりの値段が 6,000 円以上にもなる「超」高級魚です（大きな活魚は、セリ値で 1 尾数万円という高値で取引されます）。



図 15 高値で取引されるキジハタ

県内では特に鳥取県漁協酒津支所の漁業者の水揚げが多く、県全体の漁獲量の約 4 割、水揚金額では約 6 割を水揚げします。キジハタは酒津の漁業者にとって夏場の主な収入源となるため、非常に重要な魚種ですが、近年、酒津地先であまり釣れなくなりました。そこで、酒津の漁業者から、センターに「種苗放流を実施してほしい」と切実な要望がありました。

これを受けセンターでは、酒津の漁業者と協働してキジハタの放流試験を平成 18 年から酒津で実施しています。放流試験に使用した種苗は（独）水産総合研究センター玉野栽培漁業センターから譲渡を受け、センターで中間育成したもので、H18 年は 5,000 尾（平均 7.7cm）、H19 年 13,000 尾（平均 9.5cm）、H20 年は 6,000 尾（9.3cm）を試験放流しました。

今年は 10 月 28 日に地元の保育園の園児を招き記念放流を実施し、多くのマスコミからも関心を集めました。



図 16 記念放流の様子

酒津の漁業者は、放流試験の開始にあたり、少しでも放流の効果を高めるため、全長 22cm 以下のキジハタを釣上げた場合は再放流する自主規制を開始しました。また、来年からは、放流試験の効果調査（釣獲調査）に協力するなど、漁業者とセンターが連携して試験を実施しています。

★★お願い★★

酒津漁港周辺で釣りをする際に、小型のキジハタが釣れた場合は、再放流していただきますようお願いいたします。



図 17 放流前のキジハタ

キジハタは、地先で一本釣りによって漁獲されるため、燃油の使用量も少なく、大掛かりな設備投資も必要ないため、新規漁業者から高齢者まで多くの漁業者が従事できる「地球にも人にも優しい漁業」が実現できる魚種です。いち早くキジハタの栽培漁業の体制が整うよう努力します。